

最近の米国における交通事故死亡者数の大幅な減少の仕組み

Sivak, M., *Injury Prevention*, 2009, vol. 15, pp. 205-206

最近の米国での交通事故死亡者数は減少しており、その減少幅は走行距離の減少幅より大きいことがわかっている。2007年1月から2008年12月の月別データについて重回帰分析を行った。従属変数として交通事故死亡者数、独立変数として走行距離、地方での走行比率、無鉛ガソリンの平均価格(レジャー目的の走行比率の代替)を用いた。その結果、交通事故死亡者数の大幅な減少には、地方での運転(都市部での運転に比べ危険である)とレジャー目的の運転(通勤目的の運転に比べ危険である)の不均衡な減少が影響していることが示唆された。